

3月10日(火)

PROGRAM

時間	セッション	登壇・備考
10:00-11:30	鹿屋体育大学内ツアー	鹿屋体育大学特任助教 中谷深友紀
11:40-12:40	昼食休憩	
13:00-13:10	開会挨拶	鹿屋体育大学長 金久博昭
13:10-13:20	趣旨・進行説明	ライフスポーツ財団理事長 清水進 鹿屋体育大学スポーツ人文・応用社会科学系講師 棟田雅也
13:30-14:30	キーノートスピーチ① 「子どもの体力低下をもたらす問題点とその 解決策～エビデンスから見るACPの可能性～」	岐阜大学教育学部教授 春日晃章
14:40-15:20	キーノートスピーチ② 「運動遊びの意義と可能性 ～アクティブ・チャイルド・プログラムとは～」	日本スポーツ協会 スポーツ科学研究室長 青野博
15:30-16:20	パネルディスカッション 「学生は地域で何ができるのか ～子どもスポーツを支える実践と連携の可能性～」	春日晃章、青野博、佐藤善人 ファシリテーター：立教大学スポーツウエルネス学部教授 松尾哲矢
16:30-17:10	キーノートスピーチ③ 「運動遊びの実際と指導のポイント」	椋山女学園大学教育学部教授 佐藤善人

3月11日(水)

PROGRAM

時間	セッション	登壇・備考
09:00-12:30	各大学の事例報告(各30分※) 質疑応答	八戸学院大学/仙台大学/ 大阪体育大学/神戸親和大学/ 鹿屋体育大学 ファシリテーター：棟田雅也
12:40-13:00	まとめ	鹿屋体育大学スポーツ生命科学系教授 スポーツイノベーション推進機構ヘルス・スポーツプロモーション 部門長 中垣内真樹
13:00	閉会挨拶	鹿屋体育大学理事・副学長 スポーツイノベーション推進機構長 前田明

※プログラム、方法、そしてスケジュールは、参加者数や状況などに応じて変更になる可能性があります。



国立大学法人 鹿屋体育大学

National Institute of Fitness and Sports in KANOYA

研究・社会連携課

【問合せ】

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地

電話 0994-46-5060

E-Mail tosyof@nifs-k.ac.jp



鹿屋体育大学 × ライフスポーツ財団

子どもスポーツ
サミット 「地域と大学がつなぐ
子どもスポーツの未来」

スポーツイノベーション推進機構フォーラム

日程

2026年 3月10日(火)～11日(水)

場所

鹿屋体育大学大学院棟 3階大講義室
(鹿児島県鹿屋市白水町1番地)

主催：鹿屋体育大学スポーツイノベーション推進機構

特別協力：公益財団法人ライフスポーツ財団

01 2026年3月10日🔥

キーノートスピーチ①

子どもの体力低下がもたらす 問題点とその解決策 ～エビデンスから見るACPの可能性～

岐阜大学教育学部教授 **春日 晃章**

我が国の子どもの体力・運動能力の低下が始まって40年ほど経過した今、まだまだ低い状況にあり、回復目処が立っていない。

幼少年期に活発に身体活動を行うことは単に身体的な側面だけでなく心理的、社会的な発達を促すため、現代のような状況下では、心身共に未発達な若者の増加が危惧される。子どもたちにとって誰もが運動する機会は、学校教育の体育以外にはないことから、体育を通して運動好きを育み、主体的な運動機会を創出する必要がある。

そこで、体育授業の準備運動場面にアクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)を導入することで、どのような効果もたらされるかを多角的に検証した結果を示すことで、その有効性と可能性について触れ、全国的な取り組みとなるような施策について論究する。また、幼児期からの取り組みの重要性についても様々な研究結果をもとに考えていく。



02 2026年3月10日🔥

キーノートスピーチ②

運動遊びの意義と可能性 ～アクティブ・チャイルド・プログラムとは～

日本スポーツ協会スポーツ科学研究室長 **青野 博**

現在の子どもは日常生活における身体活動量が少なく、これが体力低下の1つの要因であるとされています。翻って、スポーツ庁の調査によると、体力と身体活動量、運動・スポーツに関する意識との関係について、「運動時間が長い」子どもほど、体力合計点が高くなる傾向にあり、かつ、「運動は好き」と回答した子どもは、それ以外の子どもと比べ体力合計点が高いと報告されています。

そこで、日本スポーツ協会では、こうした課題を解決させるために「アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)」を開発し、ジュニアスポーツや学校体育において実践の場を広げています。ACPの実践により、子どもが楽しく、積極的に体を動かすことを意図しています。そして、こうした取り組みを通して、生涯スポーツの基礎を培うことが可能になると、私たちは考えています。この機会に、ACPの、あるいは運動・スポーツの意義や可能性について、皆さんと一緒に学ばせていただければと思います。

<趣旨> 少子化の進行により、子どもたちのスポーツ環境は大きな転換点を迎えています。学校部活動の縮小や地域スポーツクラブの担い手不足は、地域格差を生み出し、子どもが安心して多様なスポーツに触れる機会の保障が社会的な課題ではないでしょうか。こうした状況において、地域社会と高等教育機関との連携は、子どもスポーツにおける資源の発見や開発、教育・研究環境の充実、さらに人材育成の観点から重要性を増しています。

本サミットは、大学と地域の協働を通じて、子どもスポーツの持続可能な環境形成に向けた方策を検討することを目的とし、多様な視点で議論します。

03 2026年3月10日🔥

パネルディスカッション

学生は地域で何ができるのか ～子どもスポーツを支える 実践と連携の可能性～

春日 晃章 / 青野 博 / 佐藤 善人

ファシリテーター：
立教大学スポーツウエルネス学部教授 **松尾 哲矢**

キーノートスピーチの3人の講師と、スポーツ社会学を専門に、競技者支援から子どもの運動、運動部活動の地域展開、スポーツボランティアまで幅広く研究・実践に取り組み、スポーツ庁の有識者会議に参画されるなど、最前線で活躍されている松尾教授のファシリテートによる鼎談です。



04 2026年3月10日🔥

キーノートスピーチ③

運動遊びの指導の実際とポイント

椋山女学園大学教育学部教授 **佐藤 善人**

運動遊び(スポーツ)指導において、子どもがプレイすれば、何かしらの成果を得られるでしょう。一方で、それでは「最大限」の成果は得られません。つまり、運動遊び(スポーツ)は万能なのではなく、意図をもって指導する指導者の力量が求められるのです。その力量とは運動遊び(スポーツ)の効果に対する理解であったり、指導法・指導技術だったりします。所謂よい指導者とは、この力量を備え、さらに最新の情報を得ながら学び続ける人と言えるでしょう。

今回の研修会では、講義とパネルディスカッションで運動遊びの重要性を学びました。その学びが、実際の運動遊び指導としてどう具体化されるのかを体験を通して学びます。子ども側として運動遊びを体験しながら、アクティブ・チャイルド・プログラムについての理解を深めましょう。



No.	大学名	テーマ
1	大阪体育大学	大阪体育大学の子どもスポーツ支援活動
2	仙台大学	DANDANDANCE&SPORTS (ダンス公演) の取り組みについて
3	神戸親和大学	<ul style="list-style-type: none"> ●チャレンジサマースクール ●NPO 法人親和スポーツネットとのコラボレーション教室 ●離島における子どものスポーツ環境に関する研究(沖縄：伊平屋島) ●地域連携活動(含：地域共創学)
4	八戸学院大学	青森県における子どもの健康と体力の課題について(仮題)
5	鹿屋体育大学	<ul style="list-style-type: none"> ●モルックが広げる地域共生・多世代スポーツ交流事業 ●子は親の鏡～親子で楽しむ運動あそびプロジェクト～ ●地域住民を巻き込んだ大学スポーツ観戦イベント